

和田氏と瀧覚坊

今回NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』で私たちの偉大な先人和田義盛が描かれていることに驚きました。

鎌倉と飛騨の結びつきは源頼朝の命令で大威徳寺【下呂市】が建立されたこと、和田義盛が桜の木を植えたこと、飛騨の瀧村で木地師・吉兵衛の娘をめとったと伝えがあり、これらの資料が飛騨に伝わっている。

義盛の孫の朝盛の名前が頼朝の「朝」を授かり、父・常盛の「盛」を受け継ぎ非常に期待されている。朝盛の妻は讃州今津田中氏の娘信子であり、弘法大師の影響が大きかった。和田合戦で義盛が敗死し、義盛の長男・常盛が甲斐の国で自害した。この事により和田一族が滅亡した。由比ヶ浜に義盛一族の五輪塔がある。

朝盛〔義盛の孫〕が一門の再起を願い義盛の妻の生地飛騨の瀧村へ入村した。遅れて義盛の三男朝比奈義秀も入村している。

これからは朝盛の四男朝正の話になります。朝盛が七十歳前後にできた子供が四男・朝正です。朝盛が鎌倉の出来事、また飛騨へ来た事実などを話し立派な人間になってもらうために瀧村遍照寺で修行させた。父朝盛の期待を背負って京都の泉涌寺で修行し、これからは大阪河内長野観心寺での出来事になります。飛騨の瀧村から出てきたことを思い出し瀧覚坊と名乗っていました。観心寺で楠木正成と運命の出会いがあった。当時の楠木正成は幼名多聞丸であった。正安3年4月11日師弟の関係ができた。正成は、15歳まで瀧覚の教え・弘法大師の教え・人の道などをしっかり学んだ。



像影之男覺瀧藏所寺心観

岩井の岡田修様から投稿がありましたので、原文のまま紹介します。

広報いわたき

●発行者●

岩滝まちづくり
協議会

TEL 77-9877

FAX 77-9409

メール

iwataki@hidatayaama.ne.jp

後醍醐天皇は鎌倉幕府の倒幕計画を立て楠木正成の人間性・能力を高く評価し勅命し、正成は千早城で拳兵する。瀧覚にとって鎌倉幕府（北条一族）は和田一族の仇である。楠木正成、足利尊氏、新田義貞らが協力し1333年鎌倉幕府が滅亡した。

なお、北条氏の末裔である北條良樹さんは現在飛騨の高山に住んでいる。また和田氏の末裔である和田桂勝さんは家号平左衛門を受け継ぎ、現在高山で暮らしている。生井町に住んでいる和田氏は家号七兵衛を筆頭に同族一族である。これらの元は鎌倉時代に活躍した和田の祖義盛から続いている。

朝正は観心寺へ行き天皇中心の教えを楠木正成に伝授した。西郷隆盛は楠木正成を研究していた事実があり、この天皇に関する考えが西郷隆盛に影響を与えた。

鎌倉と飛騨とのつながり

鎌倉街道として下呂から飛騨（高山）を通り、長野・山梨を経て鎌倉へと通じる街道が過去にあったそうです。下呂御厩野には源頼朝の命により大威徳寺が建立されていた跡地があります。地名に「御」がついていることから頼朝の所領他の可能性があるのではないかと私は考えております。

大威徳寺	朝盛一行が飛騨入村
和田家系図	和田朝盛の紹介
義盛が桜を植えた	

上記は飛騨の資料です。鎌倉に裏付けの資料があればさらに鎌倉と飛騨のつながりが分かります。現在、北條（北条）と和田の末裔の方が偶然にも飛騨の高山に住んでおられます。

シンボルマークとして鎌倉の（義盛の）五輪塔、飛騨の乗鞍のふもと（朝盛が入村していた）、大阪の楠木正成が天皇から拝領した菊水の旗印（瀧覚坊と正成の関係）の3点が鎌倉・飛騨・大阪（河内長野）の接点になると思います。

飛騨の裏付けの資料

1942年作の瀧覚坊の仏像	荻野仲三郎の新開記事
大日如来像	瀧覚坊と楠木正成の600年御忌の写真
古い鎧通し	ふるさと紀行
古瀬戸摺鉢観音厨子	和田氏累代の墓
木の古い箱	北條（条）氏の末裔の方の新聞記事
和田瀧覚坊師の略伝	

大阪（河内長野）観心寺の資料

大阪府遺跡調査員
 富賀鹿蔵『大日本楠公会』
 観心寺
 永島龍弘名誉住職『高野山真言宗遺跡本山観心寺』
 大阪四條畷市立教育センター
 [Tel 072-878-0020]
 久留島武彦著『大楠公と恩師瀧覚坊』
 元観心寺にあった古文書に
 「瀧覚房 僧侶者 飛騨之産。和田朝盛之四男、
 朝正者遍照寺之弟子也」と記載されていたが、
 現在散逸している
 観心寺にある過去帳



飛騨の出来事

和田合戦 [1213年] に敗れて義盛敗死の後、朝盛をはじめとして和田一門の人々は鎌倉から義盛の妻の生地である飛騨を目指して来たという事実が文献に記載されている。瀧村遍照寺跡があり、寺に伝わっていた大日如来像も現存している。和田家累代の墓は古い五輪塔が五基残っている。

鎌倉時代と思われる古瀬戸の摺鉢観音厨子があり、正面屋根の三日月形は月光菩薩を示すと思われる。また菩薩厨子とは別に古い鎧通し、木の古い箱が遺品として残っている。

朝盛の四男朝正は瀧村で生まれている。父朝盛は鎌倉の出来事を話し遍照寺に預け、学問と人の道など多くのことを学ばせた。父の期待を背負って京都の寺へ修行に行った。現在、和田氏は義盛の祖平高望と官位左衛門の家号和田平左衛門を代々受け継いでいる。

大阪河内長野の出来事

瀧覚坊と楠木正成の関係書物は以下の二つがある。

昭和12年 富賀鹿蔵著『大楠公と恩師瀧覚坊』

昭和18年 久留島武彦著『忠魂と師魂』

観心寺や楠木正成 [幼名・多聞丸] と瀧覚坊のことが記されている。

後醍醐天皇は鎌倉幕府の倒幕計画を立て楠木正成に勅命し、正成は千早城で挙兵する。瀧覚坊にとって鎌倉幕府 [北条一族] は和田一族の仇である。鎌倉幕府は1333年滅亡した。なお、北条（北条）氏の末裔である北条良樹さんは現在岐阜県高山に住んでいる。

鎌倉の出来事

源頼朝の命令で大威徳寺（岐阜県益田郡竹原村大字御厩野 [現在の下呂市]）が建てられた。和田義盛が桜の木を植えた。飛騨山住木地師の娘を妻に望んだと記載がある。

観心寺にも義盛は瀧村の吉兵衛の娘をめとったと伝えがある。また義盛は孫の朝盛には頼朝の「朝」と自分の「盛」をつけている。三浦一族で筆頭となり北条と行き違いがあり和田合戦で義盛は敗死した。義盛の妻の生地である飛騨へ落ちて来た。





瀧覚坊聖諭の事由
 観心寺の古傳に依れば瀧覚坊は飛騨州の
 人僧の瀧字は其の出生の地より由
 来するに傳ふ 鎌倉を遣はれて飛騨の山
 中に隠達せし和田の采流を引く者にして出
 家して瀧字塔頭の中流に正鑄と大楠公
 の幼時の輩と寄に事たりと傳ふ 高山の産河内
 龍泉寺住職中村五道師等に依り其の頭影
 日録に記されしに寄り其の因縁と云ふ可し
 昭和十六年七月廿三日
 河内郡竹原村御厩野
 観心寺住持末島行善記

元正天皇	仁明天皇	九條天皇	私法大師	聖叔大和尚
一十一代 天保十一年 嘉祥元年	五十一代 天曆元年 嘉祥元年	天曆元年 嘉祥元年	不問堂也祖 永享元年 應永元年	應永元年 應永元年
大正天皇	昭和天皇	明仁天皇	法性妙任信女	實登堂示圖
昭和十一年	昭和二十二年	昭和三十一年	如願堂在野用也 明治二十二年	昭和十一年 昭和十一年
皇太子	皇太子	皇太子	阿彌陀佛	阿彌陀佛
皇太子	皇太子	皇太子	阿彌陀佛	阿彌陀佛

和田義盛 生誕1147年 死没1213年

祖平高望。官位左衛門尉。三浦義明の孫で、義明は源氏再興に殉じた。この義明の決断で三浦一族の勢力を保ち頼朝の鎌倉幕府創業に尽力し功臣・初代侍別当になった。

大威徳寺は岐阜県下呂市竹原町。源頼朝の命令で建てられた。義盛は桜の木を植えた。

この時代における交通は三佛寺城より鎌倉へ行路とる者は瀧村岩井村朝日村高根村長野県山梨県鎌倉へ行く重要路であった。

飛騨の山住木地師の娘を妻に望んだとの記載がある。観心寺内にも義盛は瀧村の吉兵衛の娘をめとったと伝えがある。

和田常盛〔義盛の長男〕 生誕1172年 死没1213年

弓の名手だったと伝わり和田合戦において一族と共に戦うが敗れて甲斐国へと逃れ、朝盛に和田一族の今後の事を託し北条の追撃をかわすため横山時兼らと共に自害した。享年42歳。

和田朝盛〔常盛の長男〕 生誕・死没不明 瀧村で死亡

源頼家。実朝に近侍した。芸能に優れ、建保元〔1213〕年2月には新設の学問所番衆に選ばれる。4月出家。5月和田合戦に加わる。敗れて甲斐国逃れ、父常盛は自害した。その後は和田一門の人々は義盛の妻の生地である飛騨の瀧村へ入村した。その後義盛の三男朝比奈義秀も入村している。瀧村で四男の朝正を七十歳前後で誕生している。

瀧村には裏付け資料がたくさんある。和田家ゆかりの古い五輪塔は現在においても存在している。朝正を遍照寺へ預け和田一族の話を伝え人の道を教えた。80歳以上生きたと思われる。

和田朝正〔朝盛の四男〕 生誕1264年
死没1337年

父朝盛から過去の経緯を聞いて瀧村遍照寺で修行し、時を経て京都泉涌寺で祐学と名乗っていたが、観心寺では瀧覚坊と名乗るようになっていた。故郷の瀧村を思い出してつけられたと思われる。歳月が経ち、大阪の観心寺を訪れたことから楠木正成と劇的な出会いをした。

瀧覚坊〔朝正〕は少年期の楠木正成に四恩の大切さを教えた。瀧覚坊と観心寺との繋がりは観心寺の過去帳に「大法師瀧覚 飛州瀧の産 遍照寺之弟子也 和田朝盛 子朝正 中院73歳〔延元2年3月〕」とある。瀧村のことは朝正にしか分からないことである。



〔主貫寺龍雲・師道〕原御年百六坊龍龍ルケ於ニ鼻敏村賢八次

